

認知症の人がみる世界 ～市民公開講座を終えて～

旭川市医師会
今本内科医院

今本千衣子

令和元年5月25日（土曜日）に第6回旭川市医師会『認知症』市民公開講座を無事に終えることができました。

今年は、東京都立松沢病院院長の齋藤正彦先生をお迎えして開催いたしました。

実は、今年の1月下旬に、福岡で行われました認知症の初期支援チーム員活動のとある会で、初めて齋藤正彦先生のご講演をお聞きしたのですが、その内容がありきたりではなく、まさに心の琴線に触れるお話で、大変衝撃的でした。

ステージ上を活発に動きながらの齋藤先生のご講演は、ステイブ・ジョブズを彷彿とさせる大変な切れの良さと、その齋藤正彦先生の根底にある人間としての優しさが包括された、聴衆をまさに惹きつけてやまない、大変魅力的なものでした。

講演の後、その当時、齋藤先生とは直接の面識はありませんでしたが、清水の舞台から飛び降りる気持ちで、旭川でのご講演をお願いしました。無謀です。その場では、受諾はさすがに大変厳しく、かつて来道した時には、小樽を巡っていて飛行機に乗りそびれて大変な目があったとのお話で“北海道はトラウマですから…”とのご返事でした。

しかし、やはり、あの素晴らしいご講演を北のこの地域でぜひ、市民のみなさんに聞いていただきたいとの強い思いがありましたので、あきらめず、懲りずに、再度、地元に戻ってからお願いをしたところ、幸いにも大変ご多忙中、ご講演をしていただけることとなりました。

当日は340余名の市民の来場があり、会場に入れずお帰りになった方もいるほどの大盛況と熱気でした。

医療の発達と国民皆保険のおかげで、加齢の過程で死に至る病を乗り越えたために平均余命が延びてしまった、誤嚥性肺炎を含めて現代人の死因は臓器の耐用年数切れ、その結果としての『脳の老化』に伴う障害が激増しているというお話がありました。

健康な人は認知症を観察するのですが、まさに、患者さんは体験するのであり、認知症の人が自分の物忘れを自覚しない、というのは、間違いであることを、齋藤先生の亡きご母堂の日記からも、つぶさにお話をもしていただきました。

認知症ではどのようなことが起きているのか、ワーキングメモリーの機能についてのお話では、なぜ、高齢者が振りこめ詐欺に引っ掛かり、高額の羽毛ぶ

とん購入をかくも容易にしてしまうのか、イラストを使われ明確にご説明をいただきました。

また、認知症の方は、周囲の人が気づかないうちに、ご自分の能力低下を意識しているのではあるというお話は、多くの方が実に身につまされる思いで聴かれたのではないかと思います。

そのうえで高齢発症のアルツハイマー型認知症と若年性認知症とは分けて考えるべきであり、厚生労働省は認知症予防について今回、数値目標を提示していますが、それもどうか…そもそも、巷で言われている『認知症予防』は抗加齢対策に過ぎないというくだりは、まさに、強く共感をするものでありました。そのうえで、認知症のケアはリハビリテーションであり、日常生活支援、できないことをさせないケアであることも強調されておられました。

そして単身高齢者が認知症になった時には、ぶつ切りの継続しないばらばらの支援ではなく、家族に代わる一貫したソーシャルワークと心理支援こそが必要であるというご意見は貴重でした。

まとめの齋藤先生のスライドを掲載します。

疾風のように東京から舞い降りた齋藤先生は、1時間半のご講演終了後に、滞在時間3時間、その素晴らしい講演を終えて疾風のように飛び立たれて行きました。飛び立たれたあとには、爽やかな薫風が吹き抜けておりました。

齋藤先生の「『専門職』が忘れてはいけないこと」と、我々に提示して下さったメッセージは、すべての医療者、介護に携わる多職種のそれぞれが肝に銘じなければならない至言ではないかと思っております。

『専門職』が忘れてはいけないこと

- ・患者は生きる『主体』であって介護される『客体』ではない
 - ・最初から病識がない患者などない
 - ・患者さん自身の話を聞くことがすべての始まり
- ・私たちは、自分で思うほど合理的でも理性的でもない
 - ・患者の意思が『不合理』なら、私たちの意思も必ずしも『合理的』ではない
 - ・健康な人に許される『不合理』が、なぜ精神障害者には許されないのか？
- ・安易な受容や共感に百害あって一利なし
 - ・認知症患者の抱える悲しみも、苦しみも、絶望も私たちに分らない
 - ・『受容と共感』は『思い上がり』と勘違いに等しい

東京都立松沢病院

家族介護者が気をつけること

- ・『正しい介護』より『まずまずの生活』を目指す
 - ・幸福は伝染する、不幸も伝染する
 - ・柔軟な頭を保つ
- ・認知症を理解することが介護負担を軽減する
 - ・分かれば許せることもある
- ・失敗にめげない
 - ・『専門家』は成功した1例の話をするが、失敗した99例のことは忘れる
- ・役所との付き合い：おもねらず頼らず喧嘩せず
 - ・無意味な喧嘩をしない、文句ばかり言わない

東京都立松沢病院